

シニア・ストラテジスト
山本 雅文

マネックス証券株式会社
www.monex.co.jp

利上げされざるでも大幅下落せ ZAR

<ポイント>

- ◆昨日は、原油などコモディティ価格が再び下落する中で、カナダドルや豪ドルなどコモディティ通貨の下落が目立った。対価として米ドルは上昇したが、円やユーロに対しては上昇していない。
- ◆ドル/円は、前日の黒田総裁の追加緩和消極発言の余韻が続き、123.57 円へ続落した。但し米中古住宅販売の予想比上振れを受けたドル高を受けて、その後は一時 124 円台を回復した。
- ◆ポンドは、英 BoE 議事要旨でインフレ上振れリスクの高まりが指摘されたことから、利上げ開始早期化期待が高まり、上昇した。
- ◆NZドルは、本日早朝の RBNZ 会合では市場予想通り政策金利が 3.00%へ 25bps 引下げられ、今後の追加利下げも示唆されたが、想定ほど追加利下げに積極的ではないとの捉え方もあって NZドルショート巻き戻しが一旦入り発表後に反発、81 円台半ばから一時 82.40 円へ上昇して始まっている。
- ◆本日は、本邦 6 月通関貿易収支、英 6 月小売売上高、トルコ中銀金融政策決定、カナダ 6 月小売売上高、米新規失業保険申請件数および南ア準銀 (SARB) 金融政策決定などが予定されている。中では SARB 会合が注目、予想中央値は 25bps 利上げだが据え置き予想も多く市場の見方は割れている。昨日発表の南ア CPI が予想を下振れたため利上げ見送りでランド安のリスクがやや高まっている。但しインフレ率上昇傾向の中で今後の利上げの必要性は高く、今回見送りでもランド安は限定的となりそうだ。
- ◆ドル円は、日米重要材料が少ない中で 124 円前後での方向感ない推移が続きそうだ。

昨日までの世界：対コモディティ通貨限定の米ドル高

ドル/円は、前日の黒田総裁の追加緩和消極発言の余韻が続き、東京時間に一時 123.57 円へ続落した。但し、米 6 月中古住宅販売が 549 万件と市場予想を上振れしたことから米利回りと共にドルが上昇したことから、一時 124 円台を回復した。

ユーロ/ドルは、NY 時間にかけてドイツ 10 年債利回りの低下傾向の中でじり安となったほか、米中古住宅販売の予想比上振れを受けた米ドル高もあって、1.09ドル台半ばから一時 1.0870ドルへ軟化した。但し引けにかけては再び 1.09ドル台を回復しており、強い方向性に欠ける展開となった。
ユーロ/円も、NY 時間入りにかけて 135 円台半ばから一時 134.85 円へ軟化した後、引けにかけては再び 135 円台半ばへ反発しており、結果的に横ばい圏内の動きとなった。

豪ドル/米ドルは、豪 2Q コア CPI (刈り込み平均と加重中央値の平均) の予想比上振れ (市場予想は前年比+2.2%、実績は+2.3%) を受けて一瞬上昇する局面があったがすぐに大幅反落し 0.74 ドル台前半

から一時 0.7370ドルへ急落し前日の反発を帳消しにした。その後再び 0.74ドル台を回復する局面も見られたが、NY時間にかけては原油などコモディティ安や米ドル高と共に反落、し 0.73ドル台後半で引けている。

豪ドル/円も豪ドル/米ドル相場とほぼ同様の動きとなり、92 円丁度近辺から 91 円台半ばへ軟化した。

ポンドは、英 BoE7月分議事要旨で、据え置き決定は 9 対 0 で利上げ票はなかったが、多くの委員がインフレ上振れリスクの高まりを指摘していたことが判明しタカ派的な内容と捉えられたことから、利上げ開始早期化期待が高まり上昇、対ドルで 1.55ドル台半ばから一時 1.5647ドルへ、対円では 192 円台半ばから一時 193.98 円へ上昇した。

NZドルは本日早朝の RBNZ 会合を控えていたこともあり、昨日は他のコモディティ通貨と共に下落していた。RBNZ 会合では市場予想通り政策金利が 3.00%へ 25bps 引下げられ、今後の追加利下げも示唆されたが、想定ほど追加利下げに積極的ではないとの捉え方もあって NZ ドルショート巻き戻しが一旦入り発表後に反発、81 円台半ばから一時 82.40 円へ上昇して始まっている。

きょうの高慢な偏見: 利上げされざるでも大幅下落せざる? ZAR

[今週の見通しはこちら\(7月17日付FX戦略ウィークリー\)](#)

[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

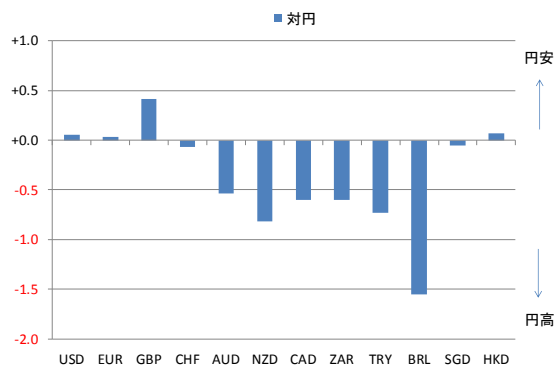
ドル/円は、米利上げ開始に向けたドル高シナリオの一方、日銀の追加緩和期待の後退が円安を限定し、かつ 124 円台半ばでは政府・日銀の円安牽制リスクが意識されることから、本日も日米重要材料が少ない中で 124 円前後での方向感ない推移が続きそうだ。なお、本邦 6 月通関貿易収支は季節調整前では 458 億円の小幅黒字転化が予想されているが、季節調整済みでは -2600 億円へ赤字が拡大する予想となっており、為替市場は反応しにくいだろう。

ユーロ/ドルも欧米材料が少なく、21 日の大幅反発で一旦下落トレンドが一服し、1.08 ドルでの底堅さが意識されてきていることから、1.09ドル台前半を中心とした推移となりそうだ。

豪ドル/米ドルは、目先はコモディティ安・米ドル高が市場のテーマとなりそうで、7 月 20 日の年初来安値 (0.7328 ドル) を睨んだ軟調な展開が続きそうだ。

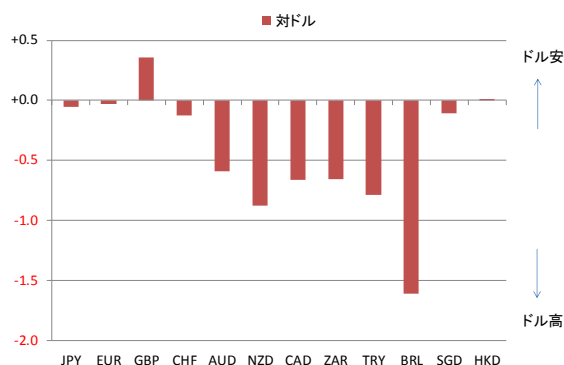
南アランド関連では昨日の南ア CPI に続き SARB 金融政策会合が注目だ(結果発表時刻は未定だが、22:20~25 分発表が多い)。予想中央値は 25bps 利上げだが、5.75%での据え置き予想も多く市場の見方は割れている。もっとも、昨日の CPI が総合(前年比+4.7%)、コア(+5.5%)といずれも市場予想を大きく下回ったことから、利上げ見送りリスクを意識した展開となりそうで、ランド安リスクに注意したい。但し、インフレ率上昇傾向は変わっていないと見られる中で今後の利上げの必要性は高く、今回見送りでもランド安は限定的となりそうだ。市場では来年 7-9 月期に向けて政策金利が 6.75%へ 100bps 程度引き上げられると予想されている。因みに、前回 5 月 21 日の会合では、政策委員 6 名中、4 名が据え置き、2 名が 25bps 利上げを主張していた。

主要通貨の対円相場(前日比%)



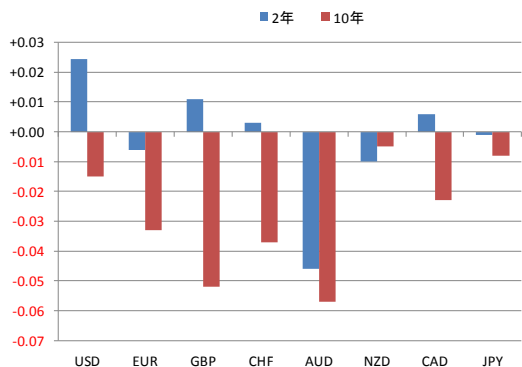
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



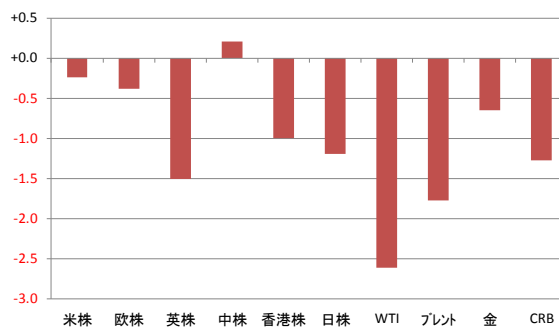
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

利益相反に関する開示事項

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会